

令和5年度 第1回視聴覚センター運営委員会（書面開催） 協議結果

- 通知発送日：令和5年7月12日（水）
- 協議期限：令和5年7月31日（月）
- 委員：金柁 純子 委員
久保 泰雄 委員
齊藤 結 委員
下村 貞之 委員
豊田まゆみ 委員
日比野和雅 委員
日吉 肇 委員
堀 久美子 委員（五十音順）

（協議事項）

『視聴覚センターのデジタルトランスフォーメーション（DX）化について』

（説明）

視聴覚センターは、市民の方々に視聴覚メディアの魅力を発信し、また、市民の方々とのつながりを深める拠点として重要な役割を果たしています。

一方、デジタル技術によるビジネスや社会、生活スタイルの変革が著しい昨今にあって、視聴覚センターがより魅力的で、幅広い年齢層に利用いただくためには、DX化に対応したメディアの整備や貸出機器のリニューアルなどが必要となっています。

このことについて、委員の皆様が感じておられること、また、それ以外の御意見・御提案もありましたら、合わせて記入していただきますようお願いいたします。

○協議結果（協議事項に対する意見等）

意見 視聴覚センターについては、市民の皆様がより身近な施設として広く知っていただく広告、PRの必要性を感じます。紙媒体よりもメディアで幅広く知らせるなど工夫を。とても良い施設であるので残念だと思ふ。

幼稚園から親子で見学や映画など鑑賞する機会等があると楽しいと思ふ。

まだまだ続くコロナ禍、安心はできないが、子どもたちが楽しめる場の提供は有り難い。

意見 資料「令和4年度事業実施状況」の「5 人権啓発映画試写会」については、教職員の参加が39名ある。一方でもっと多くアピールすることで、参加者を増やすことができると思ふ。

「9 その他の事業」では、NHK杯全国中学校放送コンテスト京都大会や京都市中学校アナウンスコンクール等が行われ、京都市における放送・視聴覚施設としての意識が高まっていると思うので、引き続き放送コンテスト等が実施できればと思う。

視聴覚センターのDX化については、貸出のメディアや機器の詳細を見ると、やはり古さを感じる。スマホが普及している時代ではあるが、多くの方が利用できる環境の整備が必要ではないかと思う。

意見 アスニーシネマやキッズシネマにおいて、アンケートやリクエスト等を行い、今後の上映に活かすことができるとよいのではないかと思う。SNSで簡易なアンケートや投票機能があるので、それらを活用し、入場者の意見や要望を把握し、ニーズに応えられると思う。こうしたSNSでの投票で決まった映画を上映する回があってもおもしろいのではないかと思う。

また、キッズシネマに来られる保護者の方には、SNSを日常的に使用している人も多いと思うので、PRとしても有効だと考える。

意見 DX化については大いに賛成である。

しかしながら、問題は何をどのようにDX化するのか？

受益者はDX化されたものを、何を媒体として利用するのか？（生涯学習センターの立場から言うとお老人にも活用できるもの）

DX化に関しての費用の予算確保はどうするのか？

これまでからも運営委員会で何度も議論されてきたが、どこまで実現できるのかという問題が大きくのしかかっているように思われる。

もう少し何をどのようにDX化するのか具体的な話が知りたいと思う。

意見 パソコンやスマホを誰もが持ち、個人がデジタル技術を駆使できるようになり、学校現場においても、1人1台タブレットを持つ状況で、視聴覚センターのライブラリー利用状況にも変化が起きているのではないか。コロナ禍前の数字に比べ、減少傾向だと思われる。より新しい機器をそろえることも利用を増やす一つの方法かもしれない。

また、資料の保存という点で、今までの視聴覚教材をデジタルデータに換えたり、貸し借りをを行うシステムを24時間対応などにしたりして、DX化することで利用者の中に広がるのではないか。ただ、これらのことを行うための予算の確保や、このような業務に移行していくための人材確保が課題かもしれない。

意見 DXについては、正直なところ私自身よく理解できていない。それゆえ、特に意見を言える立場にもないと思っている。ただ、DX推進にあたっては、その必要性および意義を明らかにし、関係者がそれらを共有することが大切かと思う。また、DXに詳しい人材確保および選定も重要である。

意見 視聴覚センターが市民の文化・教養を深める一助となるような取組を、ますます推進していくことを希望する。

意見 視聴覚センターの運営とは、どのようなことをしているのか正直知らなかった。

資料を読んで、とても素晴らしいことをしている所だと思った。

小学生の頃、年に何回か映画鑑賞会が行われ、とても楽しい時間を過ごしたことを思い出した。

今年は、コロナも5類に移行し、どこでも定員数が以前に戻りつつある。たくさんの人達が来て、利用していただけるように願う。